

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察特殊報第1号について（送付）



鹿児島市のマンゴーで、サクキクイムシ (*Xylosandrus crassiusculus*) の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (www.jpnn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

1 病害虫名 サクキクイムシ *Xylosandrus crassiusculus* (Motschulsky)

2 発生作物名 マンゴー *Mangifera indica* L. (ウルシ科)

3 発生確認状況及び被害状況

鹿児島市のハウス栽培マンゴー（樹齢10年生）で、令和3年9月頃から樹皮に直径1mm程度の食入孔と木くずが発生し、一部落葉を伴って衰弱する枝が認められた（図1，2）。枝の内部には孔道と褐色の甲虫が確認された。門司植物防疫所鹿児島支所に本虫の同定を依頼した結果、サクキクイムシと確認された。本種によるマンゴーへの加害は、沖縄県、東京都に次いで3例目である。

なお、これまでの調査において、県内他地域のマンゴー園で本種の発生は確認されていない。

4 本種の特徴

(1) 寄主植物

各種針葉樹，広葉樹に寄生する。果樹類ではナシ，クリ，マンゴー，アボカド等の弱った枝幹部や，ナシの果実への穿孔被害が報告されている。通常は健全木には穿孔しないとされる。

(2) 生態

体長は雌成虫が2.5mm内外，雄成虫は1.6mm内外。短い円筒形で体色は光沢のある赤褐色～暗褐色をしている（図3，4）。

養菌性キクイムシの一種で，成虫がアンブロシア菌（養菌性キクイムシと関係する菌類の総称）胞子を体内に保持する器官をもち，穿孔加害した孔道内に本菌を繁殖させ，これを幼虫が摂食して生育する生活様式を持つ。

(3) 分布

国内では北海道，本州，四国，九州，南西諸島及び小笠原諸島に分布する。

海外ではアジア，アフリカ，オセアニア，ヨーロッパ，北アメリカ，中央アメリカ及びハワイ等に分布する。

5 防除対策

現在、マンゴーで本種の防除に使用可能な登録薬剤はないため、以下の防除を実施する。

- (1) 木くずや食入孔を認めた場合は、速やかに侵入部位まで切除し、加害された木質部は削り取る。切り口には保護剤を塗布し、枯れ込みを防ぐ。
- (2) 切除した被害枝は、速やかに施設外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 樹勢が衰えると本種の被害を受けやすいため、適切な栽培管理で樹勢の維持に努める。また、枯れ枝や弱った枝は放置せず、早急に切除し、被害枝と同様に速やかに施設外に持ち出し適切に処分し、切り口には保護剤を塗布する。

6 参考文献等

- (1) 梶村恒 (2002) : 森林科学35巻17~25.
- (2) 愛知県 (2006) : 平成18年度病虫害発生予察特殊報第1号
- (3) 沖縄県病虫害防除技術センター (2007) : 平成19年度病虫害発生予察特殊報第1号
- (4) 東京都農林総合研究センター (2008) : 平成20年度成果情報 キクイムシ類によるマンゴー被害の発生
- (5) 伊藤昌明・梶村恒 (2009) : 日本森林学会誌91巻6号424~432.
- (6) 山口卓宏 (2012) : 植物防疫第66巻第11号28~34.
- (7) 西菜穂子ほか (2019) : 九病虫研会報65巻24~29.



図1 木くずの発生状況



図2 食入孔と孔道



図3 成虫背面 (体長2.5mm)



図4 成虫側面